



宮城県気仙沼市。津波によって流された大型の船が市内の道路でそのままになっている。

イスター友の会などからの寄付金など、すべてを合わせると何と三百万円に近い金額となった。この収支は別紙にて詳細に報告されよう。まずもって多くの皆様方に心からの感謝の意を表し、厚く厚く御礼申し上げたい!!

かくして、6月3日の早朝に仙台入りし、車で東松原塩釜、若林地区の荒浜、七ヶ浜町など、まるで戦争の爪痕のごとき津波の惨状を視察した。そして宮城県での最初の炊き出しを6月26日（日）に多賀城市にて約200名で

実施した。地震の直後、石油コンビナートなどで大火災が発生した所でもある。料理は冷製コーン・スープにロースト・ビーフ、付け合わせは、グリーンピースに人参、玉ねぎ、ベーコン、ポテトをたっぷりパンを添え、デザートは、いちごのムースに、いちごとそのソースを添えた。段ボール紙で区切っただけの避難所を目にした時、胸が痛み、子供達が笑顔で私たちのコック帽子を被ってはしゃぐ姿に心打たれた。



ゴブラン会の東日本大震災支援活動第一弾は、多賀城市の避難所のひとつ「多賀城総合体育館」に炊き出しをしていただくことになりました。

ここは、地震当日、国道45号線が金曜日の自然渋滞と震災時信号が停電のためにストップしたことが重なり、さらに自宅の家族安否を気に掛け家路を急ぐ自家用車で数珠繋ぎの渋滞に陥っていたところに、突然約5メートルの津波が襲いかかり一瞬にして約190名もの尊い命が奪われたところです。沿岸からは2kmから3kmも離れ、海すら見えない国道45号線沿線でのこの悲惨な災害は津波

の恐ろしさをまざまざと見せつけました。私も、幸運にも家族全員命は無事だったものの、自宅一階部分が津波で大規模半壊の被害を受け避難生活を強いられたひとりでした。

第1回目の炊き出しには、東京からは中村会長、長澤事務局長をはじめ6名のシェフが、はるばる北海道の洞爺湖からは大和田副会長が、そして八戸から前日仕事の後、夜を通して自家用車で駆けつけていただいたシェフもおり我々を含め地元有志料理人合わせ総勢15名がボランティア活動にあたりました。調理器具やテーブルがセットされたテントの外は大雨の中、中村会長の旗振りのもとに、被災して避難所生活を強いられている皆

さんが少しでも元気が出るように、美味しい料理を食べてもらいたいという気持ちをひとつに急造チームとは思えぬチームワークでレストランさながらに腕をふるいました。仕事終了後私たちも全員同じメニューで食卓を囲み、皆職場、年齢、立場は違えども「食を愛する人たち」の絆を強く感じました。現地の復興は想像以上に厳しくこれから先も苦難の道のでまだまだ時間が掛かることは間違いありませんが、「食」を通じて私たち料理人が何が出来るかを考えながらゴブラン会の「食文化ネットワーク」を生かし被災地の会員を代表して、これからも微力ではありますが復興のサポートを継続し続け地域に貢献できれば考えております。

多くの皆様さまからのご支援ご協力いただき本当にありがとうございました。

ホテルメトロポリタン仙台 副総料理長 渡邊 隆